

啐啄同時

仏教で使われるある言葉を紹介します。「啐啄同時(そったくどうじ)」という言葉です。「啐啄」は、何かをするのに絶妙なタイミングを指す表現です。「啐啄」の「啐(そつ)」とは、鳥が卵から孵るときに、ヒナが卵の殻の内側からこつこつと叩いて、孵る準備ができていることを知らせることを言います。「啐啄」の「啄」とは、親鳥が卵の殻の外側からつついて殻を破ってやることを言います。ヒナが卵から孵ろうとしているのに親鳥のつつきが遅ければ、ヒナは窒息してしまい、親鳥のつつくのが早すぎれば、まだ準備ができていないヒナが生まれてしまいます。早すぎず遅すぎず、まさにこのときというタイミングで、ヒナと親鳥の行いが一致するのが「啐啄同時」であるわけです。

この「啐啄同時」は、皆さんの高校生活における成長の節目にも当てはまると考えます。皆さんは、日々の高校生活の中で、成長の卵を自分の中に産み落としていきます。その卵とは、「何かおもしろそうだ、という知的好奇心」であったり、「漠然としてるけど、こんな自分になれたらいいな、という将来の夢」などです。その卵が、自分の中で成長し、孵りたくてうずうずしているタイミングで、外から卵をつつく刺戟があったとき、夢や好奇心のヒナが卵から出て成長を始めます。その外からの刺戟には、いろいろなものが考えられますが、やはり、われわれ教職員が、大きな役割を果たしたいと思います。授業や面談、日々の会話の中の刺戟で、皆さんの卵をつついて殻を破ることができたとき、卵から出てきた「夢」や「知的好奇心」のヒナが、人の力を借りず、自らのエネルギーで大きく成長を始める、そんな姿を思い描きます。

皆さんには東宇治高校在学中、自分の中にたくさんの「成長の卵」を産み落としてほしいと思います。そのためには、多くの本を読み、友人と語らい、部活に打ち込み、そして先生と話をしてください。そして、産み落とされた卵を温めるために、「何を知っているか、何ができるか」だけでなく、「知っていること、できることをどう使うか」「どのように社会・世界とかがかわるか。」を意識して勉強してください。そして、我々教職員は、ここぞというタイミングで、その卵の殻を破る役割が果たせるように心していきたいと思います。少しでも多くの「啐啄同時」の機会が皆さんに訪れるように願っています。

(平成31年4月 入学式の式辞から)